

陳情第96号	受理年月日	令和4年5月27日
付託委員会	建設建築委員会	
件名	旧クロサキメイトビル跡の一日も早い再生について	
要旨	<p>令和2年1月、株式会社メイト黒崎が破産手続の開始を申し立てるといふ激震が走って以降、クロサキメイトはテナントの撤退が相次ぎ、同年8月に黒崎井筒屋が62年の歴史に幕を下ろし惜しまれつつ閉店したことにより、同ビルは全ての営業を終了した。</p> <p>本市の副都心の中心であるJR黒崎駅前という一等地に建つ同ビルは、昭和54年に、メイト黒崎とともに、黒崎そごう、ジャスコ黒崎店を核テナントとして華々しくオープンして以来、四十数年にわたり多くの買物客でにぎわい、黒崎地区だけではなく本市のにぎわいの創出に大きく貢献し、数えきれない人々に楽しい思い出を刻んできただけに残念でならない。</p> <p>黒崎地区はこれまでも、平成13年に、住民の大きな期待を受け開業したコムシティの運営会社がわずか1年半後に破産、商業施設が撤退し、その後、平成25年に本市が購入し行政機関中心の施設として再生するまで十数年にわたり、一等地に巨大な空きビルが存在し続けるという非常に苦い経験をしている。</p> <p>既に、クロサキメイトが閉鎖され、2年がたとうとしている。</p> <p>当初、メイト黒崎の破産管財人は、地元で貢献できる人に任意売却したいとの意向で手続を進めていたが、条件に合う応札がなく、昨年11月には同不動産を破産財団から放棄することとなった。現在は、実質的な管理処分権者がなく、安全管理の観点から周辺の歩道が通行できなくなるなど、再生に向けた道筋が全く見えないだけでなく、町を暗い雰囲気でも包み、不便な状況を創出するなど、多大な悪影響を及ぼし続けている。</p> <p>現在、本市では、黒崎・小倉・東田の3地区をにぎわいの拠点として捉え、30年後を見据えた町の将来構想として、まちづくり構想を策定している。</p>	

黒崎地区は、J Rの駅が近いなど交通の利便性が高いことからマンションの建設が相次ぎ、町なか居住人口は年々増加するなど、今もなお高いポテンシャルを有している。多くの人が住めば生活必需品が必要となり、多くの人が行き交えば飲食もする。この町には、旺盛な有効需要が存在する。

同ビルの売却・開発は、同土地の所有者や抵当権者等の利害関係者が担うものとするが、この町のポテンシャルを生かし、副都心黒崎の再生、V字回復を本市飛躍の起爆剤とすることは、本市の将来を左右する、喫緊かつ最重要課題の一つである。

については、旧クロサキメイトビル跡の開発を土地所有者等任せにするのではなく、本市の最重要課題として、市役所の総力を挙げて積極的に関与・支援し、この町のポテンシャルを最大限生かすために、商業施設やオフィス等を含めたにぎわいの拠点として一日も早く再生させるべく全力を尽くすよう、切に求める。